

## 【編集後記】

素材メーカーにとり、高機能化技術や高品質化技術を活かした、お客様に安心して使っていただける信頼性の高い素材や部材を、国境を越えて提供すること、そしてそのためのモノづくり力を磨くことが、事業継続のテーマになりつつあります。

先日、国内鍛造メーカーで構成する法人が催した、インドやドイツへの技術視察の様子を聞く機会を得ました。「インドでは企業間の鍛造技術のレベル差が大きく、平均値で見ると日本の数十年前相当のレベルである。素材疵や鍛造品の駄肉はお構いなく、切屑が高く売れることもあり機械加工を多用して疵や余肉を取れば良いとの風土。その中で、日本企業の支援やOBを雇って力をつけてきたトップレベルの企業になると日本のトップ群と技術に遜色は無い」「ドイツでは、産学共同で実用技術の課題をとらえる姿勢が際立ち、問題の深堀りと解決を徹底的に、じっくり行う。それらを通し価格が高くても買ってもらえる製品を開発し、製造している。一方で、ドイツメーカーがインドメーカーの傘下に入る事例があり、技術にかける時間を買うインド、旬を過ぎたら売るドイツの戦略も垣間見える」。

日本を顧みると、疵のない素材をニアネット形状に鍛造して、機械加工で切屑を出さないことがモノづくり競争力の源泉にもなっており、また産学連携においては比較的短期間での成果を目指してきました。ところが、こうして長年培ってきた技術基盤や人材育成術を有する熟練技術者の活躍する場が国内には少ない…他国と比べると、指向の違いやガラパゴス化？の良し悪しが浮き彫りになります。

さて、グローバルに市場や競合、ビジネスの進め方を考えていく中で、本「塑性加工・切削加工」の特集では、各分野で権威の先生方から、技術の方向性について貴重なご意見やヒントを与えていただきました。大同グループからの論文や資料では最旬の技術・製品開発のテーマで構成しました。種々の技術やアイデアを縦横に織り込んだ新製品開発への思いを新たにするとともに、震災地域の復興から、経済回復、次世代の基盤づくりまでを日々支えておられる御多用の執筆者の皆様に、あらためてお礼を申し上げます。

(編集責任者：木村利光)

## 電気製鋼編集委員会

委員長	岡 部 道 生						
委員	秋 田 康 明	石 黒	武 入	山 恭 彦	遠 藤 博 司		
	木 村 利 光	紅 林	豊 清	水 哲 也	高 橋 元		
	立 花 一 人	辻 本	敏 長	島 友 孝	西 村 司		
	野 口 裕 明	秦 野 敦 臣	林 克 彦		松 淵 周 司		
	宮 嶋 孝 士	森 義 昭	吉 永 祐 孝				

電気製鋼／大同特殊鋼技報 第82巻 第2号（不許転載）

2011年12月20日 印刷

2011年12月27日 発行（年2回発行 非売品）

編集発行人 岡部道生

発行所 大同特殊鋼株式会社 研究開発本部  
〒457-8545 名古屋市南区大同町2-30  
<http://www.daido.co.jp/rd/index.html>

印刷所 株式会社大同ライフサービス  
〒457-0819 名古屋市南区滝春町9  
<http://www.daidolife.co.jp>

DENKI-SEIKO ELECTRIC FURNACE STEEL Vol.82 No.2 2011 All rights reserved.

Published by Daido Corporate Research & Development Center, Daido Steel Co., Ltd.

Address : 2-30 Daido-cho, Minami-ku, Nagoya, Japan 457-8545

Telephone 81-52-611-9646 Fax 81-52-611-2603

お問合せ先 大同特殊鋼株式会社 研究開発本部内 電気製鋼編集委員会事務局

〒457-8545 名古屋市南区大同町2-30

TEL 052(611)9646 (直) FAX 052(611)2603